

Trac での reStructuredText 対応

Trac は [WikiFormatting](#) を使用できるすべての箇所で、Wiki マークアップの代わりに reStructuredText を使用することができます。

reStructuredText の Web ページより:

"reStructuredText は読みやすく、WYSIWYG なプレーンテキストへのマークアップ文法と、そのパーサシステムです。(Python の docstring のような) プログラムへのインラインドキュメンテーションや、シンプルな Web ページの素早い作成、スタンドアロンのドキュメントの記述に役立ちます。reStructuredText は個別のアプリケーション向けに拡張ができるように設計されています。"

Subversion リポジトリのファイルを reStructuredText として Trac のソースブラウザに表示したい場合、Subversion の `svn:mime-type` 属性に `text/x-rst` を設定してください。[この例](#) が参考になります。

必須条件

Trac で RST を使うためには、Python の docutils パッケージがインストールされていなければなりません。あなたのオペレーティングシステムでまだ使用できない場合は、[RST Website](#) からダウンロードすることができます。

docutils のインストールには `easy_install docutils` を使用してください。Trac が docutils パッケージを探すことが出来ない可能性があるため、(apt-get install python-docutils などの) OS のパッケージマネージャは使わないでください。(訳注: docutils が提供している `setup.py` では `setuptools` を使用していないため、OS のパッケージでは `docutils-*.egg-info` が作成されない場合があることを指しています。egg-info さえ作成されていれば OS のパッケージマネージャを使用しても問題ないと思われます。)

さらなる RST に関する情報

- reStructuredText Web サイト -- <http://docutils.sourceforge.net/rst.html>
- RST クイックリファレンス -- <http://docutils.sourceforge.net/docs/rst/quickref.html>

RST を Trac で使用する

テキストブロックが RST でパースされるようにするには、rst プロセッサを使用してください。

reStructuredText における [TracLinks](#)

- Trac は RST テキストの中で [TracLinks](#) が可能になる、RST のディレクティブ 'trac' を提供しています。

Wiki マークアップ	表示
<pre> {{{ #!rst ■■■■ ■■■■ ■■■■■■■■ .. ■■■■ trac:: #42 }}}</pre>	<p>これは #42 へのリンクです。</p>

- Trac は RST で [TracLinks](#) を簡単に作成できるように、`:trac:` というロールを予約しています。

Wiki マークアップ	表示
<pre> {{{ #!rst ■■■■■■■■ `#12`:trac: ■■■■■■■■ Trac ■■■■■■■■■■ `TracGuide`:trac: ■■■■■■■■ }}}</pre>	<p>これはチケット #12 へのリンクです。</p> <p>Trac の使い方を学ぶためには、TracGuide を参照して下さい。</p>

`:trac:` ロールのすべての使用例の一覧は、[WikiRestructuredTextLinks](#) を見てください。

reStructuredText におけるシンタックスハイライト

同様に、RST において [TracSyntaxColoring](#) を行なうディレクティブがあります。ディレクティブは `code-block` と呼ばれます。

Wiki マークアップ	表示
<pre> {{{ #!rst .. code-block:: python class Test: def TestFunction(self): pass }}}</pre>	<pre> class Test: def TestFunction(self): pass</pre>

.. code-block ディレクティブの後のコードは少なくとも1文字インデントする必要があります。

reStructuredText における Wiki Macros

[Wiki マクロ](#) を RST の中で使用するには、code-block のようなシンタックスハイライトと同様のディレクティブを使用します。

Wiki マークアップ	表示
<pre> {{{ #!rst .. code-block:: RecentChanges Trac,3 }}}</pre>	<p>2012/10/20</p> <ul style="list-style-type: none"> • TracIni (diff) • TracRepositoryAdmin (diff) • TracSearch (diff)

:code-block: を使って、より簡素な構文でも Wiki マクロを利用できます:

Wiki マークアップ	表示
<pre> {{{ #!rst :code-block:`RecentChanges:Trac,3` }}}</pre>	<p>2012/10/20</p> <ul style="list-style-type: none"> • TracIni (diff) • TracRepositoryAdmin (diff) • TracSearch (diff)

より大きい RST の例

この例のように書くと、とても分かりやすくなります:

Wiki マークアップ	表示
-------------	----

<pre> {{{ #!rst ##### ===== reStructuredText ■ **■■■** ■■■■■■ webpage_ ■■ ■: == == ===== ■■ ■■ ----- A B A or B == == ===== ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ == == ===== RST ■■ TracLinks ----- ■■■■ `http://trac.edgewall.org/ticket/42 #42`:trac: ■■■■■■■■■■ .. _webpage: http://docutils.sourceforge.net/rst.html }}}</pre>	<h3>ほげほげヘッダ</h3> <p>reStructuredText は 素敵 。この続きは webpage で。</p> <p>表:</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">入力</th> <th>出力</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>A or B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偽</td> <td>偽</td> <td>偽</td> </tr> <tr> <td>真</td> <td>偽</td> <td>真</td> </tr> <tr> <td>偽</td> <td>真</td> <td>真</td> </tr> <tr> <td>真</td> <td>真</td> <td>真</td> </tr> </tbody> </table> <p>RST での TracLinks</p> <p>チケット #42 のように使用します。</p>	入力		出力	A	B	A or B	偽	偽	偽	真	偽	真	偽	真	真	真	真	真
入力		出力																	
A	B	A or B																	
偽	偽	偽																	
真	偽	真																	
偽	真	真																	
真	真	真																	

訳注: 日本語でテーブルを作成する場合、Python-2.4 以降かつ docutils-0.4 以降でない場合は、docutils に日本語テーブルパッチを適用する必要があります。

See also: [WikiRestructuredTextLinks](#), [WikiProcessors](#), [WikiFormatting](#)